



## 2026年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年1月9日

上場会社名 株式会社ワッツ 上場取引所 東  
 コード番号 2735 U R L <https://www.watts-jp.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 平岡 史生  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員経営企画本部長 (氏名) 角本 昌也 T E L 06-4792-3280  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年8月期第1四半期の連結業績 (2025年9月1日～2025年11月30日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年8月期第1四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年8月期第1四半期	15,351	2.4	271	1.6	329	7.3	194	1.6
	14,995	1.2	267	40.3	307	55.5	191	111.8

(注) 包括利益 2026年8月期第1四半期 207百万円 (16.9%) 2025年8月期第1四半期 177百万円 (103.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年8月期第1四半期	14.72	—
2025年8月期第1四半期	14.57	14.57

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年8月期第1四半期	百万円	百万円	%
2025年8月期	27,105	13,072	48.2
	27,510	13,029	47.3

(参考) 自己資本 2026年8月期第1四半期 13,054百万円 2025年8月期 13,012百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金					合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末		
2025年8月期	円 銭 —	円 銭 10.50	円 銭 —	円 銭 12.50	円 銭 23.00	
2026年8月期	—	—	—	—	—	
2026年8月期(予想)	—	7.50	—	12.50	20.00	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2025年8月期 第2四半期末配当金の内訳 普通配当7円50銭 記念配当3円00銭  
 2025年8月期 期末配当金の内訳 普通配当7円50銭 特別配当5円00銭  
 2026年8月期(予想) 期末配当金の内訳 普通配当7円50銭 特別配当5円00銭

### 3. 2026年8月期の連結業績予想 (2025年9月1日～2026年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
第2四半期(累計)	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	31,000	1.8	750	△8.6	750	△13.4	450	△16.2
	63,000	2.3	1,500	5.7	1,500	5.0	900	3.4
								円 銭 34.01
								68.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- |                      |    |
|----------------------|----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | ：無 |
| ② ①以外の会計方針の変更        | ：無 |
| ③ 会計上の見積りの変更         | ：無 |
| ④ 修正再表示              | ：無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

- |                     |
|---------------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） |
| ② 期末自己株式数           |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計）    |

2026年8月期1Q	13,458,800株	2025年8月期	13,458,800株
2026年8月期1Q	225,953株	2025年8月期	225,953株
2026年8月期1Q	13,232,847株	2025年8月期1Q	13,160,879株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有（任意）

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	8
(その他の事項) .....	8

[期中レビュー報告書]

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間における経営成績は、次のとおりであります。

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	14,995	15,351	355	2.4
100円ショップ事業	14,011	14,328	317	2.3
国内その他事業	780	834	53	6.8
海外事業	203	188	△14	△7.4
売上総利益	5,815	5,954	139	2.4
営業利益	267	271	4	1.6
経常利益	307	329	22	7.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	191	194	3	1.6

売上高は、主に100円ショップ事業の売上高が堅調に推移し増収となりました。高額商品の積極導入をはじめとしたプロダクトミックスが功を奏し、外部環境が不安定な状況下においても売上総利益率は前年同期と同水準を維持しております。販売費及び一般管理費は、既存店舗の改装費用、WebCM作成や各種プロモーション費用等により増加しておりますが、計画内で推移しております。以上の結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は増益となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、物価の上昇が依然として続くなか、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果により、個人消費は徐々に持ち直しの動きがみられ、緩やかな回復基調で推移しております。小売業界においては、生活必需品を中心に価格志向と価値志向の二極化が進み、お客様の購買行動の変化に対応した提案力が一層求められる環境となりました。

このような環境のもと、"いつも"によりそう100円ショップ「Watts (ワツツ)」「Watts with (ワツツウィズ)」等を展開する当社グループは、お客様に寄り添った店舗づくり、ブランド価値の最大化、運営業務の効率化に注力しております。

#### (国内100円ショップ事業)

POSデータを基に、立地や客層に合わせた品揃えをするため店舗の改装を進めています。並行して、売れ筋商品を中心に高額商品、オリジナルコスメ「fasmy (ファスミー)」、『自分時間の楽しみ方を形に』するライフスタイルブランド「Tokino:ne (ときのね)」、タレントとのコラボ商品等の取扱いを充実させた結果、当第1四半期連結累計期間の既存店売上高対前年同期比は101.0%となりました。また、一部地域でのナショナルブランド商品（ディスカウントショップ「リアル」で扱っている洗剤等の日用消費財）の取扱いや、ブランド認知度向上を狙いSNSで人気を集めるダンスグループを起用した30周年WebCMの公開、テナント型店舗でのセルフレジの導入などを進めています。セルフレジ導入に関しては、全体の7割程度まで完了し、混雑時の待ち時間短縮等お客様の利便性の向上、また店舗作業の省力化に大きく貢献しております。

#### (国内その他事業)

心地よい生活を提案する雑貨店「Buona Vita (ブオーナ・ビータ)」は、関東地方のショッピングモールを中心に展開し、スキンケア・メイクアップ用品、服飾雑貨等が好評であり、お客様の人気を集めています。ディスカウントショップ「リアル」は、インフレ傾向の中でお客様から支持され売上は好調に推移しております。グループ内のブランドを活用し、100円ショップとのコラボ店舗を大阪府内で3店舗展開しております。

#### (海外事業)

海外では日本式の100円ショップより安価な商品を取り扱う形態の店舗が増えており、従来の形態では評価されにくい状況になっていることから、直営店舗としては縮小し卸売の拡大に注力する方針に転換しております。卸売としては、フィリピン、ベトナム、ラオス、香港など30カ国以上に商品を提供しながら、ナイジェリアやウズベキスタンを含む新規市場の開拓・支援強化を進めてまいります。

当第1四半期連結会計期間における店舗数の増減は、次のとおりであります。

	前連結会計 年度末	出店	退店	当第1四半期 連結会計期間末
100円ショップ事業	1,877	47	16	1,908
直営店舗	1,868	47	16	1,899
FC店舗	9	—	—	9
国内その他事業	19	—	1	18
Buona Vita (ブオーナ・ビィータ)	10	—	—	10
リアル	7	—	—	7
その他	2	—	1	1
海外事業	4	—	—	4
合計	1,900	47	17	1,930

(注) 100円ショップ事業のうち、Wattsブランド店舗である「Watts」「Watts with」については、1,579店(63店舗純増)と全体の82.8%となりました。

なお、当社グループの事業は、100円ショップの運営及びその付随業務の単一セグメントであるため、セグメントの記載をしておりません。

## (2) 当四半期の財政状態の概況

### (資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は20,801百万円となり、前連結会計年度末に比べて384百万円減少いたしました。これは金利上昇に備え資金調達を短期中心の弾力的な方法に変更し、借入残高を減少させた影響で現金及び預金が1,186百万円減少した一方、商品及び製品が792百万円増加したことなどによるものであります。

固定資産は6,304百万円となり、前連結会計年度末に比べて20百万円減少いたしました。これは繰延税金資産が51百万円、のれんが32百万円、それぞれ減少した一方、建物及び構築物が41百万円、工具、器具及び備品が23百万円、それぞれ増加したことなどによるものであります。

この結果、総資産は27,105百万円となり、前連結会計年度末に比べて405百万円減少いたしました。

### (負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は12,414百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,392百万円増加いたしました。これは短期借入金が900百万円、買掛金が553百万円、それぞれ増加したことなどによるものであります。

固定負債は1,619百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,840百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が1,862百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は14,033百万円となり、前連結会計年度末に比べて447百万円減少いたしました。

### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は13,072百万円となり、前連結会計年度末に比べて42百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が29百万円増加したことによるものであります。この結果、自己資本比率は48.2%(前連結会計年度末は47.3%)となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2025年10月10日の決算短信で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流动資産		
現金及び預金	6,187,421	5,000,936
売掛金	3,501,633	3,513,055
商品及び製品	11,218,940	12,010,946
原材料及び貯蔵品	16,720	7,653
未収消費税等	401	354
その他	296,387	304,552
貸倒引当金	△35,978	△36,213
流动資産合計	21,185,526	20,801,284
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,851,704	3,922,653
減価償却累計額及び減損損失累計額	△2,952,316	△2,981,748
建物及び構築物（純額）	899,388	940,905
車両運搬具	26,383	27,031
減価償却累計額及び減損損失累計額	△21,766	△22,855
車両運搬具（純額）	4,617	4,176
工具、器具及び備品	5,760,268	5,885,066
減価償却累計額及び減損損失累計額	△4,580,273	△4,681,279
工具、器具及び備品（純額）	1,179,994	1,203,787
土地	257,800	257,800
リース資産		
減価償却累計額及び減損損失累計額	△97,713	△98,029
リース資産（純額）	1,371	1,055
有形固定資産合計	2,343,171	2,407,725
無形固定資産		
のれん	142,918	109,937
その他	260,259	230,914
無形固定資産合計	403,177	340,851
投資その他の資産		
投資有価証券	360,046	352,845
繰延税金資産	610,930	559,159
差入保証金	2,478,600	2,499,468
その他	136,727	151,674
貸倒引当金	△7,419	△7,373
投資その他の資産合計	3,578,885	3,555,773
固定資産合計	6,325,234	6,304,349
資産合計	27,510,760	27,105,634

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流动負債		
買掛金	3,924,364	4,478,282
電子記録債務	3,918,559	3,951,981
短期借入金	—	900,000
1年内返済予定の長期借入金	1,373,176	1,458,425
未払法人税等	350,650	71,391
未払消費税等	233,051	166,158
賞与引当金	158,616	20,958
その他	1,062,739	1,366,809
流动負債合計	11,021,156	12,414,007
固定負債		
长期借入金	1,962,278	100,000
退職給付に係る負債	567,366	570,083
役員退職慰労引当金	37,622	38,608
資産除去債務	666,540	684,204
その他	225,855	226,595
固定負債合計	3,459,663	1,619,492
負債合計	14,480,820	14,033,499
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	440,297	440,297
資本剰余金	1,135,435	1,135,435
利益剰余金	11,432,731	11,462,115
自己株式	△115,698	△115,698
株主資本合計	12,892,766	12,922,150
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	102	114
為替換算調整勘定	119,864	132,662
その他の包括利益累計額合計	119,966	132,776
新株予約権	17,208	17,208
純資産合計	13,029,940	13,072,134
<b>負債純資産合計</b>	<b>27,510,760</b>	<b>27,105,634</b>

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)
売上高	14,995,731	15,351,394
売上原価	9,180,296	9,396,496
売上総利益	5,815,434	5,954,897
販売費及び一般管理費	5,548,070	5,683,222
営業利益	267,364	271,675
営業外収益		
受取利息	2,367	4,039
為替差益	21,154	54,352
受取ロイヤリティー	709	121
受取補償金	5,500	7,946
補助金収入	—	892
その他	14,577	6,324
営業外収益合計	44,308	73,677
営業外費用		
支払利息	3,646	4,699
持分法による投資損失	705	7,657
その他	34	3,284
営業外費用合計	4,386	15,641
経常利益	307,286	329,711
特別利益		
固定資産売却益	250	—
保険解約返戻金	—	1,904
特別利益合計	250	1,904
特別損失		
固定資産除却損	3,124	16,124
減損損失	4,908	2,858
特別損失合計	8,033	18,983
税金等調整前四半期純利益	299,503	312,632
法人税、住民税及び事業税	41,699	66,128
法人税等調整額	66,044	51,709
法人税等合計	107,743	117,837
四半期純利益	191,759	194,795
親会社株主に帰属する四半期純利益	191,759	194,795

## (四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)
四半期純利益	191,759	194,795
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△40	12
為替換算調整勘定	△16,756	3,079
持分法適用会社に対する持分相当額	2,700	9,718
その他の包括利益合計	△14,096	12,810
四半期包括利益	177,662	207,605
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	177,662	207,605

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

当社グループは、100円ショップの運営及びその付随業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)
減価償却費	173,669千円	184,065千円
のれんの償却額	32,981	32,981

## (その他の事項)

地域別・事業部門の売上高は、以下のとおりであります。

事業部門	地方別	金額(千円)	前年比(%)	構成比(%)	期末店舗数
100円ショップ直営計	北海道地方	621,633	98.3	4.5	98
	東北地方	606,591	99.7	4.4	111
	関東地方	3,671,833	101.9	26.6	396
	中部地方	2,104,362	102.2	15.2	316
	近畿地方	3,716,729	102.1	26.9	371
	中四国地方	1,779,074	104.9	12.9	390
	九州地方	1,314,310	101.9	9.5	217
100円ショップ直営計		13,814,536	102.1	100.0	1,899
卸他		1,513,876	105.0		
顧客との契約から生じる収益		15,328,412	102.4		
その他収益		22,982	98.2		
外部顧客への売上高		15,351,394	102.4		

(注) 地方別の区分は、次のとおりであります。

北海道地方 北海道

東北地方 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東地方 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部地方 新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿地方 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中四国地方 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州地方 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

## 独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年1月8日

株式会社ワツ

取締役会 御中

仰星監査法人  
大阪事務所

指定社員 公認会計士 田邊 太郎  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 坂戸 純子  
業務執行社員

### 監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社ワツの2025年9月1日から2026年8月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2025年9月1日から2025年11月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2025年9月1日から2025年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、

職業的専門家としての判断を行い、職業的懷疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 繼続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。